

県央地域の各市町村における「入退院情報ツール」の取組状況等

	厚木市	愛川町	清川村	海老名市	座間市	大和市	綾瀬市
取組状況	<p>①入院時情報提供書 今年度、市地域包括ケア（多職種連携・情報共有）連絡会において、入院時に活用する「入院時情報提供書」の共通書式化を検討している。 【所管】地域包括ケア推進担当</p> <p>②医師とケアマネジャーとの連絡票 今年度、市地域包括ケア（多職種連携・情報共有）連絡会において、在宅から医療機関へ繋がる際に活用する「連絡票」の共通書式化を検討している。 【所管】地域包括ケア推進担当</p>	平成29年度から「在宅医療・介護連携推進協議会」を立ち上げ、情報共有ツールの整備など、医療・介護関係者間の情報共有を検討している。	現在は個々のケースで対応している。（地域包括支援センターと病院のケースワーカー等との連携） 令和元年度から厚木医師会の医師と多職種連携強化を図る「医療機関別ケアマネジャー等との連絡方法一覧」を構築予定。	入院時情報提供書についての検討には至っていないが、配食などの在宅福祉サービス利用者については、一定の情報を得るようにしている。	座間市地域在宅医療・介護連携支援室で地域の課題として把握し、ワーキンググループを立ち上げて入院時情報提供書を作成した。	入退院情報ツールではないが、連絡票と患者相談・依頼表を作成し、共有している。各病院の空き病床の確認は毎日行っている。	・ツールの作成はしていない。
課題	<p>①入院時情報提供書 実際に機能させていく上で、関係者の理解が不可欠である。したがって、いかに関係者の理解を深め広げていくのかということが課題と認識している。</p> <p>②医師とケアマネジャーとの連絡票 実際に機能させていく上で、関係者の理解が不可欠である。したがって、いかに関係者の理解を深め広げていくのかということが課題と認識している。</p>	現場レベルでの具体的な導入については未定であるが、まずは医療機関別ケアマネジャー等との連絡方法一覧であるケアマネタイムス利用での情報提供様式を検討している。	今後も近隣市町や厚木医師会等と連携して、共有できる様式等のツールを作成していく必要がある。	今後は、在宅医療・介護連携推進協議会などで検討が必要と考えている。またできれば広域に共通のものが利用できると効果的と感じている。	退院時情報提供書は今後取り組む予定	医療圏域単位もしくは県で統一した入退院情報ツール（書式等）があるのが望ましいと考えられる。	・市内病院は1箇所のみで、市民が市外の病院へ入院することも多い。入退院の書式やルールについて、市域ではなく、県域等の広域で実施することはできないか。